

特集

兵庫県南部地震から20年

1. 17は忘れない ～伝える編～



地震発生時刻の
午前5時46分で
停止した天文科
学館の塔時計

平成7年1月17日午前5時46分、兵庫県南部地震が発生し、明石市は大きな被害を受けました。私たちはあの震災を忘れることなく、その記憶や教訓を将来にわたり伝えていく必要があります。兵庫県南部地震から20年を迎えるにあたり、当時の市内の様子を振り返ります。

まちの様子



①マンションの外部階段が崩壊した(中崎2丁目) ②石垣が崩れ樹木が倒れる(明石公園) ③埋立地では液状化現象が見られた(中崎1丁目) ④柱が崩れ大きく傾いたマンション(太寺大野町)

ライフライン



⑨鉄道、道路が寸断されたため、神戸行きの臨時客船が運航された(明石港) ⑩市内の7割が断水し、臨時給水場には長蛇の列ができた(市役所) ⑪特設公衆電話で知人に連絡をとる市民(市役所) ⑫市内各地でガス管が破損し、明石川以東で供給が停止された(大蔵中町)

被災者対応



⑤市内に13カ所、856戸の仮設住宅が建設された(中崎1丁目) ⑥余震が続く中、多くの市民が避難所へ避難した(朝霧小学校) ⑦地震から2日後の19日に被災者相談センターを開設した(市役所) ⑧健康状態のチェックを受ける市民(ライフ明海)

地震発生後の市議会の動き

市長へ要望書を提出

地震発生後、市議会は市内の被害状況や市民の生活状況などをいち早く収集し、1月24日にテレビ等報道機関を通じた情報提供や公共施設の開放の拡大など緊急に対策が望まれる7項目について、市長に要望書を提出しました。また、2月1日には被災者救済のための緊急対策など、さらに10項目について市長に要望書を提出しました。その後も断続的に会議を開き、これらの要望事項について市から現状報告を受けました。

復旧のための予算を可決

3月2日から開会した3月定例会では、10名の議員が一般質問に立ち、うち8名の議員が市の震

災対策について質問しました。そのほか、復旧・復興に対する積極的な取り組みと速やかな対応を求める立場から、新年度予算や補正予算、条例審査を行い、全議案を可決しました。



平成7年3月定例会の冒頭、黙とうが捧げられた

震災当時の 市民意識調査から

(回答数 5,511人・複数回答)

Q 地震発生後、困ったことは

- ①水道・ガス停止、電話の不通 (83.1%)
- ②鉄道など交通機関の不通 (65.7%)
- ③道路の渋滞 (54.4%)
- ④食料品の不足 (38.8%)
- ⑤地震に関する情報の不足 (31.0%)

Q 優先すべき防災対策は

- ①ライフライン等の耐震性向上 (43.5%)
- ②防災無線など情報伝達 (42.2%)
- ③食料・飲料水を蓄える (40.4%)
- ④救急医療体制の整備 (31.5%)
- ⑤防災意識を高める (22.0%)

平成27年1月発行の市議会だよりでは、「災害に備える編」を掲載します。